



小樽の文化財



北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽

小樽市教育委員会



かつて、小説家小林多喜二は、小樽のまちをこのように表現しました。

「人口十五六万の、街並が山腹に階段形に這い上った港街で、
広大な北海道の奥地から集まってきた物産が、
そこから又内地へ出て行く謂わば北海道の『心臓』みたいな都会である。」
——小林多喜二「故里の顔」

その「心臓」は、全国各地の人々と文化を取り込み、
日本の近代化を支える物資を送り出し、金融という名の血液を循環させました。

しかし、高度経済成長の変化に取り残され、次第に「心臓」の鼓動は弱まりました。

「心臓」の鼓動を再び取り戻させたのは、市民の手でした。
「古いもの」として失われそうになっていた歴史的な物ごと^{みいだ}に新たな価値を見出し
歴史を活かしたまちづくりを推進しました。

いま、「心臓」は、全国に誇る観光都市として脈打っています。

市内に残された文化財や歴史的遺産は、
「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」の誕生、
繁栄、衰退、そして再生の記憶を物語っています。

さあ、この冊子を手にもちに出て、小樽の物語をたどってみませんか。

目次

1. 小樽の歴史	02
2. 文化財マップ	04
3. 小樽の文化財	06
● 鉄道と物流に係わる文化財	
01：旧手宮鉄道施設	06
02：北海道鉄道開通起点	07
03：JR 小樽駅 本屋 / プラットホーム	08
● ニシンがもたらした文化財	
04：忍路鯨漁撈の行事	09
05：にしん漁場建築	10
06：旧青山家別邸 主屋 / 文庫蔵 / 板塀	11
07：松前神楽	12
08：木造五百羅漢像	13
09：木造聖観音立像	14
● 小樽に移住した人々が伝えた文化財	
10：向井流水法	15
11：高島越後盆踊りの行事	16
● 銀行と経済に係わる文化財	
12：日本銀行旧小樽支店	17
13：旧三井銀行小樽支店	18
14：旧日本郵船株式会社小樽支店	19
● 大昔の小樽の姿を伝える文化財	
15：手宮洞窟	20
16：忍路環状列石	21
17：地鎮山環状列石	22
4. 小樽市指定歴史的建造物	23
5. 日本遺産	26
6. 埋蔵文化財	28
7. 地域の歴史を伝える文化遺産	30
8. 文化財 Q&A	31

※開館状況等については、各施設に直接お問い合わせください。